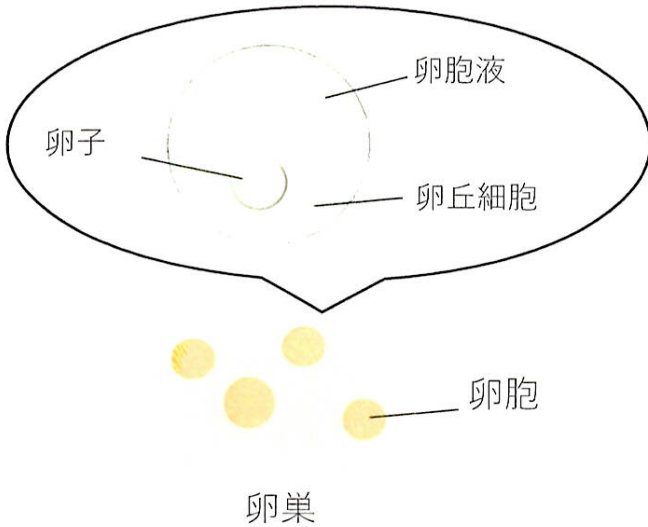


こんにちは、受精卵課の筒井です。今回は、**卵子**と**卵丘細胞**についてお話させて頂こうかなと思います。

【卵子と卵丘細胞】

そもそも、**卵巣**にある**卵胞**内には中を満たす**卵胞液**と**卵子**で構成されています。しかし、**卵子**は**卵胞**の中を浮遊しているのではなく、**卵丘細胞**（らんきゅうさいぼう）に取り囲まれて壁にくっついています。



【卵丘細胞の役割】

◎卵子の代わりに代謝をする

卵子のみだとエネルギーをつくることが出来ないため、代わりに卵丘細胞がエネルギー産生をして卵子に供給しています。

◎卵子の保護

排卵された卵子は卵管に移動します。卵管に入ってきたウイルスや異物から卵丘細胞は卵子を守る働きもあります。

◎受精を助ける

卵丘細胞に含まれる物質が、精子の受精能を誘発するということがわかっています。

このように、卵丘細胞は受精卵になるまでの過程において大変重要な役割を担っています。

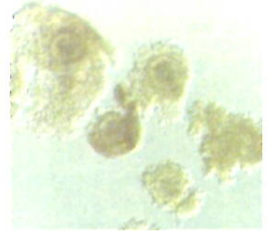
【卵丘細胞のランク分け】

OPUや屠場卵で吸引する卵子は、一般的にA,B,Cのランクに分けられます。これは、弊社だけでなくほかの培養をやっている所でも同じだと思います。

主に卵丘細胞の付き方でランク分けを行っています。

〈A ランク〉

卵子の周りに卵丘細胞が何層にもくっついている



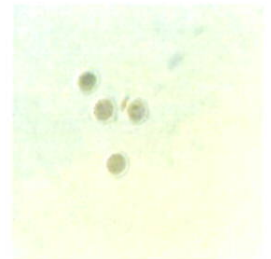
〈B ランク〉

卵子の周りに卵丘細胞が1、2層程度ついている



〈C ランク〉

卵子の周りに卵丘細胞がところどころ、まったくついていない



質の悪い**卵子**は、受精卵への発生率も落ちます。AI で受胎しない牛は、もしかしたら**卵子の質**があまりよくないものが排卵されているのかもしれません。

約2年間、OPU を行ってきて卵子のランクと受精卵の発生率は比例しているような結果が見えてきたので、次回は卵丘細胞の付き具合が受精卵への発生に反映しているのかを、データをまとめたのせてみようと思います。読んで頂きありがとうございます。